

令和元年度
春日井市道風記念館運営協議会

と き 令和元年6月7日（金）
午前10時～

ところ 春日井市道風記念館

平成30年度事業報告

1 道風記念館運営協議会

月 日	会 場	内 容
6月1日（金）	道風記念館	○協議事項 (1) 平成29年度事業報告について (2) 平成30年度事業計画について

2 展 示

(1) 館蔵品展

名 称	内 容	展 示 期 間	観 覧 者 数
常設展示	・小野道風の業績などの解説パネル ・小野道風を中心に平安時代の書の複製・木版本など	通 年	人 8,652
書体の変遷Ⅱ	近現代書作品や中国の名碑拓本資料等で、漢字の書体の変遷が一望できるように展示をした。篆書、隸書を紹介した前年に引き続き、行書、草書、楷書を紹介。	4月25日（水） ～7月16日（月）	1,335
書の魅力	近現代書作品を展示し、さまざまな書の魅力を解説した。	11月7日（水） ～2月3日（日）	3,068
近現代の書【明治・大正編】	5月1日に新元号へ改まるのを機に、近現代の書の流れを一望する展覧会を2回に分けて開催。第1回目として明治・大正の書を展示した。	2月6日（水） ～4月21日（日）	※647

※は3月31日まで

(2) 企画展

名 称	内 容	展 示 期 間	観 覧 者 数
企画展 「おののとうふう～ 中国の書と和様の書 ～」	小野道風の書と、道風が手本とした中国の書などを展示し、小学生にもわかりやすく解説をした。理解を助けるため、ワークシートを作成した。	7月21日（土） ～9月2日（日）	1,474

特別展 「琉球の書」	沖縄に残る、古琉球時代から近代の書を展示した。 講演会 1「東アジア文化圏における琉球の書」(9/9) 講師 鶴田 大(沖縄県立芸術大学非常勤講師) 琉球古典芸能公演(9/16) 講演会 2「万国津梁の精神と琉球文化」(9/22) 講師 阪井芳貴(名古屋市立大学大学院教授)	9月7日(金) ～10月8日(月)	489
企画展 「没後 30 年坪井正庵かな作品展」	坪井正庵の代表作を展示した。 ギャラリートーク(10/13) 講師 森本栖鳳	10月12日(金) ～11月4日(日)	1,383

(3) その他の展示

名 称	内 容	展 示 期 間
第 83 回県下児童・生徒 席上揮毫大会作品展	平成 30 年度に開催された大会の全参加作品を展示した。	12月21日(金) ～1月6日(日)

3 講 座

名 称	内 容	開 催 日	受講者数
道風記念館講座 「楷書・行書・草書 三体の臨書」	中国の名碑拓本を手本とした臨書実技講座。 講師 中村立強	5/30(水)・6/6(水)・ 6/13(水)・6/20(水)・ 6/27(水)・7/4(水)・ (6回)	人 47
ワークショップ 「道風くんにチャ レンジ！」	小野道風のお話に因んで、家族で団扇に字を書いた。 講師 橋詰桃郎・橋倉詠雪	7/22(日) 午前・午後(2回)	80

名 称	内 容	開 催 日	受講者数
ワークショップ 「はじめてのふで」	初めて筆に触れる子どもが 書の基本を学んだ。 講師 長谷川秀谷・小川大樸 武内峰敏・川本大幽	7/24(火)・8/1(水)・ 8/3(金)・8/5(日) 午前・午後(8回)	128
ワークショップ 「秘密の特訓」	小学生が書の基本を学んだ。 講師 山川昌泉・山川桂花 中村立強・伊藤井翠	7/25(水)・7/28(土) 午前・午後(4回)	128
ワークショップ 「名前を美しく書く」	中学生以上が、自分の名前を 美しく書くコツを学んだ。 講師 中村立強	8/26(日) 午前・午後(2回)	30
道風記念館講座 「近現代の書の魅力」	近現代(明治から平成まで) の書の魅力の解説。 講師 橋詰桃邨	2/21(木)・2/28(木)・ 3/7(木)・3/14(木) (4回)	61

4 第37回道風の書臨書作品展

- ・応募点数 一般の部 白氏詩巻 252点 秋萩帖 265点
高校生の部 智証大師諡号勅書 2,894点 継色紙 243点
- ・審査員 古谷 稔・田中 登・福田哲之
- ・審査日 11月18日(日)
- ・表彰式 1月12日(土)
- ・展覧会 1月11日(金)～20日(日)
- ・観覧者 356人

5 道風記念館だよりの発行

- ・小野道風に関する研究発表や、小野道風に関する資料の紹介などを行った。
第53号(3月31日)

6 その他

- ・小野道風関係資料及び書作品の収集・整理

令和元年度事業計画

1 道風記念館運営協議会

会 議 名	内 容
道風記念館運営協議会 (委員 9 名)	市長の諮問に応じて、記念館の運営に関し、必要な調査及び審議を行う。

2 展 示

(1) 館蔵品展

名 称	内 容	展 示 期 間
常設展示	・ 小野道風の業績などの解説パネル ・ 小野道風を中心に平安時代の書の複製・木版本など	通 年
館蔵品展	館蔵品の中からテーマを設定して展示する。	年間 3 回開催

(2) 企画展

名 称	内 容	展 示 期 間
企画展 「おののとうふう～小 野一族のひみつ～」	子ども向けにわかりやすく小野道風の書を 紹介する。理解を助けるためのワークシー トを作成する。	7 月 19 日(金)～ 9 月 1 日(日)
特別展 「川谷尚亭の書」	川谷尚亭の代表作を展示する。 会期中に講演会を開催する。	9 月 6 日(金)～ 10 月 14 日(月)
企画展 「黒野清宇の書」	黒野清宇の代表作を展示する。	10 月 18 日(金)～ 11 月 4 日(月)

(3) その他の展示

名 称	内 容	展 示 期 間
第 84 回県下児童・生徒 席上揮毫大会作品展	本年度に開催される大会の全参加作品を 展示する。	12 月下旬 ～ 1 月上旬

3 講 座

書に関する講演会・講座を開催する。

家族向けのワークショップを開催する。

4 第38回道風の書臨書作品展

- ・対象作品 一般の部 小野道風筆屏風土代・伝藤原行成筆伊予切
 高校生の部 小野道風筆屏風土代・伝小野道風筆本阿弥切
- ・応募締切 10月25日（金）
- ・審査日 11月17日（日）
- ・展覧会 1月中旬
- ・表彰式 1月11日（土）
- ・審査員 古谷 稔・田中 登・福田哲之

5 道風記念館だよりの発行

小野道風を中心に、書に関する研究発表や、資料の紹介などを行う。

第54号（3月）

6 その他

- ・ 小野道風関係資料及び書作品の収集・整理

平成30年度事業報告

2 展示

(1) 館蔵品展

・常設展示の観覧者数

平成30年4月1日から平成31年3月31日までの観覧者数です。前年度事業である館蔵品展「書体の変遷Ⅰ」の4月頭の観覧者数を含みます。また、改元記念企画展【明治・大正編】の平成31年4月の観覧者数を含まないため、この資料の展覧会ごとの観覧者数を合計しても数は合いません。

・書体の変遷Ⅱ

漢字の書体を古い順に言うと、篆書、隸書、行書、草書、楷書 です。

平成29年度の館蔵品展「書体の変遷Ⅰ」で篆書、隸書を紹介しました。

平成30年度はこれにひきつづき、行書、草書、楷書を紹介しました。

・書の魅力

書をあまり観たことのない人向けに、書を鑑賞する楽しみを知ってもらおうと、平成27年から毎年一回開催している展覧会です。書の見方を提案しながら、丁寧に解説を加えます。

・改元記念企画展【明治・大正編】

ひきつづき【昭和・平成編】を現在開催中です。近現代を代表する書家の作品を展示しているため、道風記念館近現代書名品展ともいえ、充実した内容の展覧会だと思います。

(2) 企画展

・企画展おののとうふう

夏休みの期間中に、子ども向けに毎年開催している展覧会です。小野道風とその書のついて、子ども向けのくわしい解説を加えます。

毎年サブタイトルを変え、さまざまな方向から小野道風を解き明かすよう、工夫しています。平成30年度は、【中国の書と和様の書】というサブタイトルをつけ、道風の書と道風が手本にした中国の王羲之の書とを比較することで、道風の書の特徴を理解し易いようにしました。

・特別展「琉球の書」

古琉球時代～近代の沖縄の書を展示しました。借用先は、沖縄県立博物館・美術館、沖縄県立図書館、沖縄美ら島財団と個人の収集家です。

沖縄の展覧会は、紅型などの染め物、芭蕉布などの織物、螺鈿の工芸品など、はなやかな工芸品をメインとしたものが各地で開催されていますが、書がスポットライトを浴びたことはいままでにありませんでした。沖縄県外での書をメインとした展覧会はこれが初めてでしたので、話題性が高く、書道史の研究者等一部の人たちの中で高い評価を得られました。会期中に開催した琉球古典芸能公演では、琉球の古典的な舞と器楽（三線、琴、胡弓、

太鼓)を、プロの舞踊家に披露してもらいました。華やかな公演となりました。

- ・没後30年坪井正庵かな作品展

坪井正庵(大正4～昭和63)は、全国的にも大きな仮名書道の団体、正筆会(せいひつかい)の理事長をつとめ、生涯愛知県を拠点に活動をしつづけた仮名書家です。春日井市でも、道風展審査として長年お世話になった方です。

遠方からお弟子さんや孫弟子さんたちが観覧にみえて、にぎやかな展覧会になりました。ギャラリートークをお願いした森本先生は、坪井先生と親交の深かった方で、現在正筆会の副会長です。

- ・県下児童生徒席上揮毫大会作品展

小野小学校で毎年開かれている県下児童生徒席上揮毫大会の参加作品すべてを小野小学校から借用して毎年展示しています。(2階展示室にて)

3 講座

- ・道風記念館講座として、毎年座学の講座と臨書実技講座を開催しています。

講座内容は毎回違いますが、“書の鑑賞に役立つ講座”を目指しています。

実技講座については、創作指導にすると書の流派の問題などが出たり、講師の塾の宣伝効果が高くなってしまうので、臨書指導に限定しています。

- ・ワークショップ

企画展おののとうふうの会期中に、毎年3種類のワークショップを開催しています。どれも人気で、特に「はじめてのふで」と「秘密の特訓」の参加競争率は激しいです。30年度にはじめて大人向けのワークショップ「名前を美しく書く」を実施しましたが、参加者が少なかったので、次回からはやめる予定です。子ども向けの展示なので、チラシも大人の目にとまりにくいのだと思います。

4 道風の書臨書作品展

道風記念館が開館以来実施している、公募展です。道風や佐理・行成の書いたものを手本とし、毎年示された課題を原寸大で書写します。毎年全国からご応募があります。

出品料がかからないこと、審査員は書家ではなく古筆の研究者(顧問の3人の先生)であること、一般部優秀作品は道風記念館に永年保存することがこの公募展の特徴です。

一般の部と高校生の部があります。

5 道風記念館だより

道風記念館開館以来毎年発行している便りです。

1 年度事業計画

2 展示

(1) 館蔵品展

- ・常設展示

いつもどおり開催

- ・館蔵品展 3回

「改元記念企画展【昭和・平成編】」、「書の魅力」、「新収蔵品展」を予定しています。
しかし、3回目の「新収蔵品展」はまだタイトルも内容も固まっていません。

(2) 企画展

- ・企画展おののとうふう

今回のサブタイトルは【小野一族のひみつ】を予定しています。

小野道風の書を理解するために、道風の一族、小野氏の秘密にせまります。

- ・特別展「川谷尚亭の書」

川谷尚亭（明治19～昭和8）は高知県出身の書家。日下部鳴鶴に師事した。書の腕だけではなく、論客としても頭角を現し、将来を期待されたが、48歳の若さで亡くなった。
しかし後の書道史に与えた影響は大きい。

今回の展覧会は、尚亭の弟子筋にあたる書家からの数年越しの要望に応える形での開催。
借用先は、川谷家、光ミュージアム、堺市博物館。

- ・企画展「黒野清宇の書」

黒野清宇（昭和5年～平成29年）は、豊田市出身のかな書家で、生涯愛知県を拠点に活動をした。道風展の審査員を長年務めるなど、春日井市でも大変お世話になった方です。
お弟子さんたちのご協力のもと、遺墨展を開催します。平成30年に多数の書道関係書籍を、31年に作品をご寄贈いただきました。昨年、古川美術館でも遺墨展が開催されました。